

授業協議会記録

1 研究の視点

- 生徒が物語の内容を理解し、自分ごととして自由に表現するために、リテラチャー・サークル（以下 LC）や車座での話し合い活動を行うことは効果的であったか。
- 振り返りを行うことは、生徒が自分の英語の学習に対するメタ認知能力を向上させることにつながっているか。

2 自評

- 「The peace book」や「平和のための 25 項目」、マザーテレサの言葉などいろいろな英語に触れるインプット活動を大切にしたい。ALT の先生が読み聞かせもした。本時までにインプットの活動をしたことが、p4c や LC でのアウトプットに繋がったと感じた。
- 事前の授業でオバマ大統領のスピーチを扱い、生徒はそれを踏まえて平和に関する自分の考えをマッピング、ワードリスト作成などをしてレポートを作成した。レポートをロイロノートで提出し、教師がコメントをロイロノートで返信し、アドバイスや今後の課題を提案した。このような一人一人の生徒へのフィードバックも課題点や自分が達しているレベルを理解することで、良いアウトプットに繋がると思う。

3 質疑応答

- LC をどのぐらいの時間で行うのがよいのか。
→今回は 15 分。11 分だと、調べた内容を伝えるのみで終わってしまいがちで、残りの 4 分で新しい意見が出てくることが多い。15 分が丁度よいと思っている。
- 問いを考え選ぶ活動に関して、生徒はその場で問いを作っているのか。また、他教科でも行っているのか？
→その場で考えさせて作らせている。附属中では、道徳の授業でよく行っている。
- ウォーミングアップの英語の問答ゲームは普段からしているのか。また、その活動中のやりとりの内容が難しかった時、自然と辞書を使いながら伝えており、とてもよいと感じた。
→いつも帯活動でやっている。2 分前着席をしているので、その間に板書している。LC などの活動を通して、自分の意見を伝える力を伸ばしていきたいと考えている。
- このクラスはいつ頃から LC を始めたのか。
→2 年生の頃に 1 クラスで行った。その経験がある生徒が、今の活動でもリーダーシップを取ってくれている。
- イラストレーターの生徒が絵をもとによく話していた。ただ「描きました」で終わっていない。どのような指導をすればよく話すようになるのか？
→生徒が「話したい」と思うことが大切である。分かってもらいたいことを絵にさせて、「伝えたいこと」を考えさせている。
- 「自分ごととして自由に英語で表現させる」ための指導とはどのようなものか？
→帯活動の問答ゲームでは、身近な内容について話している。また、各単元で本文の内容と自分の経験とを関連付けて考えさせている。自分の身近な経験と繋げることを意識している。
- ペアリングの方法は？
→事前に誰となら英語で話しやすいか（4 人）というアンケートを取り、マッピングしてマッチングしたところでペアを作った。ペアができなかったところは、授業の様子や学級担任と相談して作っている。LC 用の座席を決めている。

4 指導助言

- エージェンシーは、学習指導要領にある生徒像と同じである。附属中では、問答ゲームを日本語で週 1 回行っている。このようなベースになる活動を、継続していく必要がある。
- LC で本文をテーマに話し合う場面では、図を使っておさらいをしていたので理解しやすかった。互いを見て伝え合おうとする姿が見られた。指導を続けた結果であり、自分のことと結び付けて話をするので、子どもたち同士も楽しく活動していた。また、形式的なものではなく、中身のあるやりとりなので、子どもたちも熱中する。報告の場面もとても良かった。
- p4c は、学級づくりが大切である。互いの意見を伝え、受け止めてもらうことのできる学級づくりが大切。生徒の生活に近い意見が出たのは、「The peace book」の読み聞かせが効果的であったと思う。生徒の発言がつながる場面も多く、クラスもコミュニケーション状態も良かった。3 月までに伸ばしていってほしい。